



第 9 回 産業技術大学院大学 デザインコンテスト受賞者決定 未来のデザイナーがテーマ「はさむ」に挑戦

産業技術大学院大学では、「感性と機能を融合したものづくり」への理解を深め、未来のデザインプロフェッショナルを発掘・育成すべく、「はさむ」というテーマで、創立以来 9 回目となるデザインコンテストを実施しました。

海外からの応募を含め、未来のプロフェッショナル・デザイナーを目指す学生から、全 144 点の応募があり、以下のとおり最優秀賞 1 点、佳作 3 点を決定しました。

なお、表彰式は、2 月 17 日（水）にクリスタルヨットクラブにて実施します。

◆ 受賞者及び作品名

◆ 最優秀賞 [副賞30万円]

- 崎山 祥（京都造形芸術大学 2年）

作品名『**Sandwich the Time**』

◆ 佳作 [副賞5万円]

- 大井 直人（筑波大学 3年）

作品名『**muni**』

- 植南 雄也（武蔵野美術大学 3年）

作品名『**C-clock（シー・クロック）**』

- 浦崎 秀司（千葉工業大学 3年）

作品名『**Crab stool（クラブスツール）**』

※受賞作品詳細は別紙を参照ください。

■ 第 9 回デザインコンテスト表彰式

【開催日時】 平成 28 年 2 月 17 日（水） 17 時 30 分～18 時 00 分

【開催場所】 クリスタルヨットクラブ クラブハウス（品川区東品川 2-3-16）

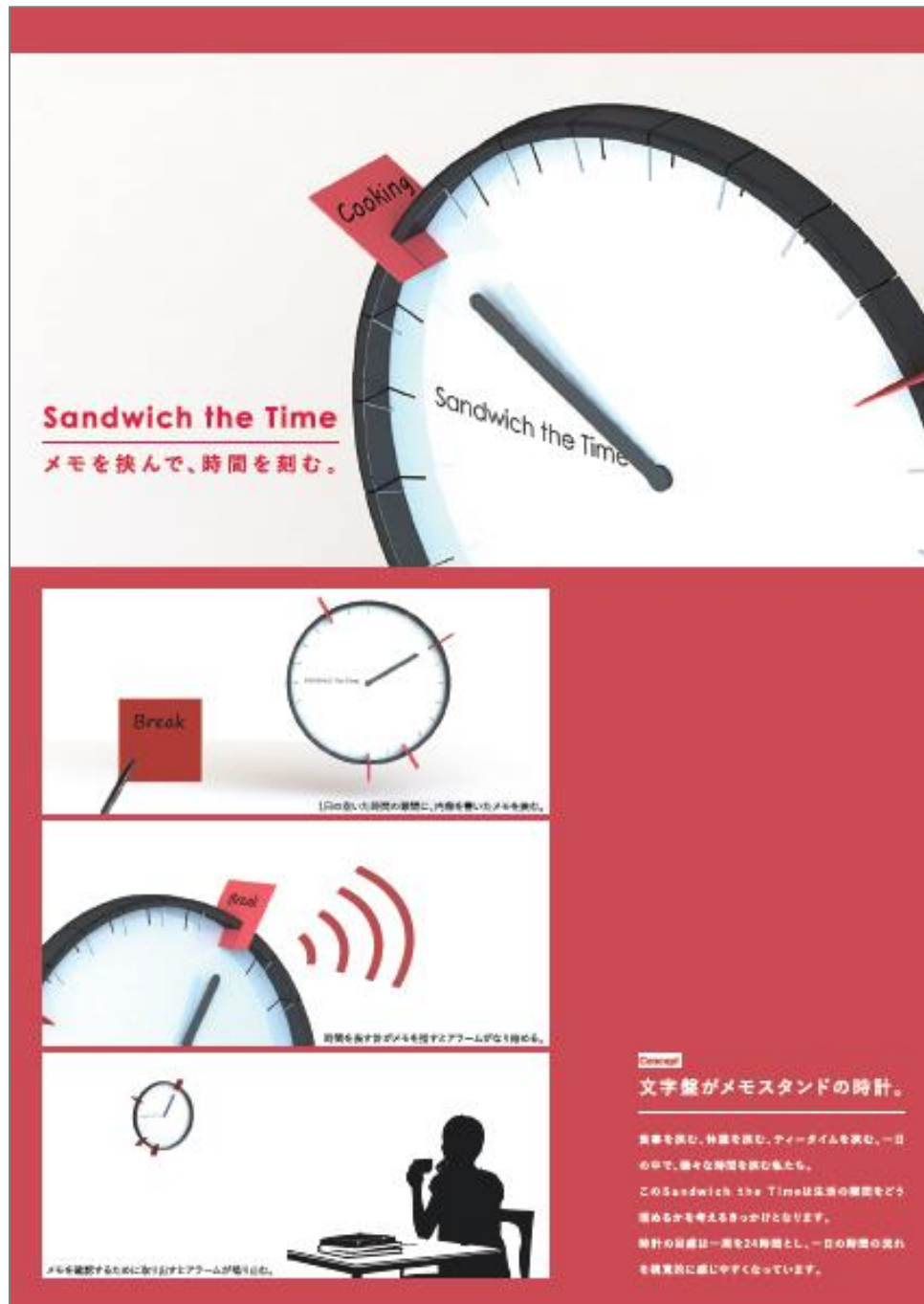
※当日は、「AIIT 技術経営交流会 2016」を同時開催。

【問合せ先】 産業技術大学院大学管理部管理課

電話：03-3472-7832 Fax：03-3472-2790

最優秀賞 崎山 祥（京都造形芸術大学 2年）

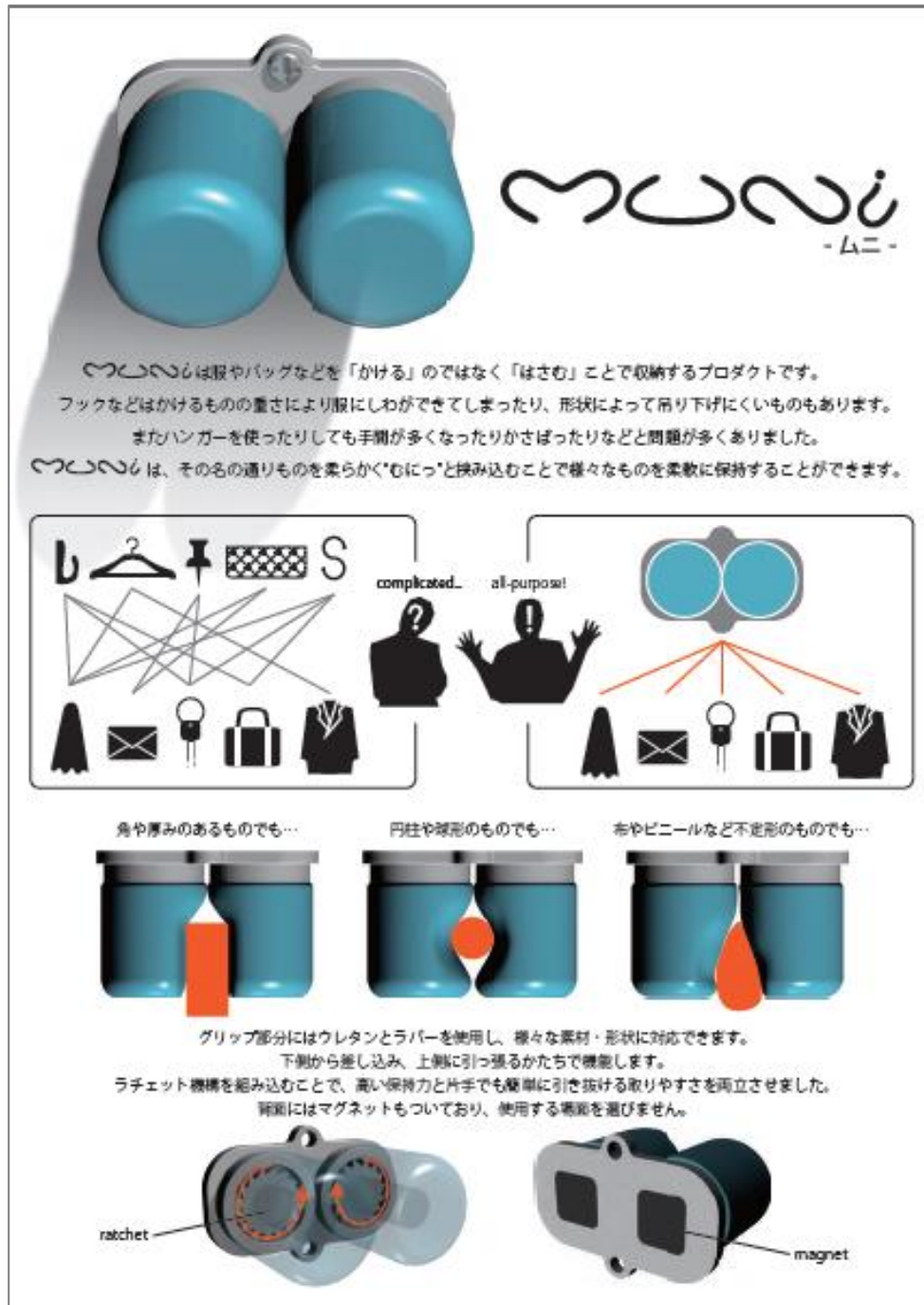
作品名 『Sandwich the Time』



【受賞理由】

時計の文字盤にメモをはさむだけで、アラームのセットを可能にした。こうすれば、セットが簡単で設定した時刻もわかりやすいし、さらにメモに書いた内容が大事なイベントの詳細を教えてくれる。技術的には検討を要するところもあるが、アナログの楽しさとデジタルの便利さを組み合わせたアイデアで、時計のアラーム設定を簡単にわかりやすくしたいという思いを解決した点を高く評価し、最優秀賞に選定した。

作品名 『muni』

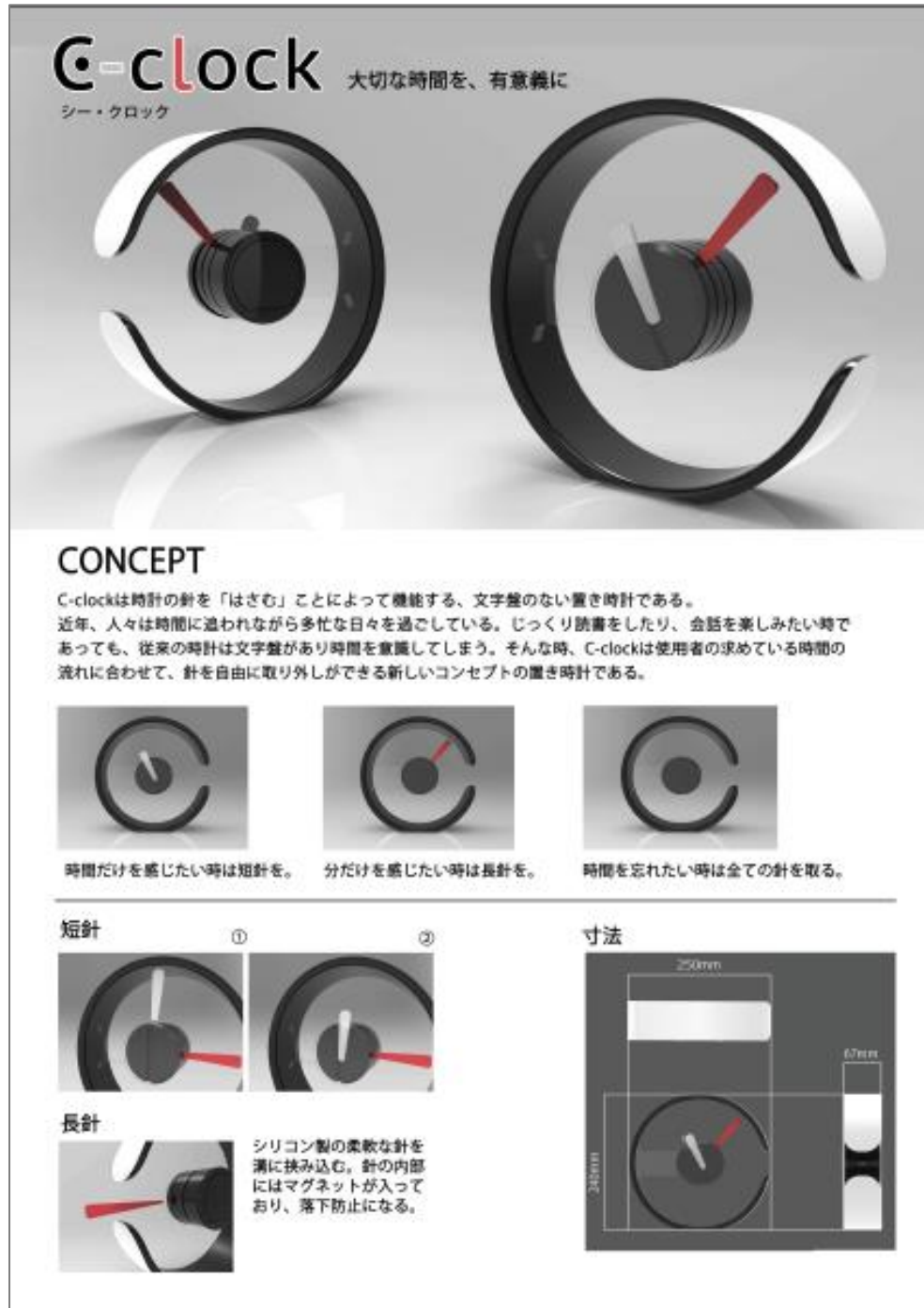


【受賞理由】

テーマの「はさむ」動作を応用して、コートやバッグなどを簡単にかけるフックである。これは、様々な形状のものをはさむための2つのエラスティックな突起からなり、内蔵のラチェット機構で確実にホールドできるようにしている。素材や機構を工夫してシンプルな構造で確実に「はさむ」機能を実現した発想とデザインを高く評価した。

佳作 植南 雄也 (武蔵野美術大学 3年)

作品名『C-clock (シー・クロック)』



【受賞理由】

短針、長針を取り外せるという斬新な発想の時計をデザインした。時刻を正確に表すのが時計本来の機能だとすれば、これはそのアンチテーゼである。人は時間の流れをその時々で全く違って感じる。だから時間の流れをその時々で気ままにデザインしてもいいだろうという思いである。この時間の流れをデザインするという斬新な発想とデザインを評価した。

佳作 浦崎 秀司 (千葉工業大学 3年)

作品名 『Crab stool (クラブスツール)』



【受賞理由】

駅や街角のベンチに座るとき、持っていた荷物をどこに置くか悩むもの。そんな時このスツールなら心配無用で、座面の下に荷物を置くことができる。しかも座ることで荷物がホールドされるから盗難の心配もなく、さらに置き忘れないようにアラームが鳴る。構造や機構については検討を要する点もあるが、日常の問題をはさむことで解決した点を評価した。